

## 1 研究主題

### 確かな学力をはぐくむ言語活動の充実（1年次）

## 2 主題設定の理由

### (1) 学習指導要領の改訂から

今回の学習指導要領の改訂の大きな柱の一つに「言語活動の充実」があげられている。また、教育課程実施上の配慮事項として、次のように明記されている。

各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。

知識・技能を習得するのも、これらを活用し課題を解決するために思考し、判断し、表現するのもすべて言語によって行われるものであり、これらの学習の基盤となるのは、言語に関する能力である。さらに、言語は論理的思考だけではなくコミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心をはぐくむ上でも言語に関する能力を高めていくことが求められている。

言語に関する能力を育成する中核的な教科である国語科だけでなく、各教科においても、それぞれの教科の特質に応じた言語活動の充実について具体的に明記された。

今回の改訂においては、このように言語に関する能力の育成を重視し、各教科等においても言語活動を充実することが求められている。

### (2) これまでの取組から

本校では、教育目標である「創造的な知性、豊かな情操、健康な体を養い、未来を切り拓く力を備えた児童を育成する」と、めざす児童像「進んで学ぶ子ども」「互いを思いやる子ども」「健康でたくましい子ども」の具現化を図るために、平成19年から21年まで3年間「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」を研究主題に掲げて様々な実践を行ってきた。そこでは、家庭科を除くすべての教科・領域等で97回の研究授業が行われた。

その取組を通して、「表現力・コミュニケーション力」に加えて、子どもの「書く力」「語彙力」「思考力」等をはぐくむことが課題としてあげられた。

### (3) 子どもの実態から

子どもの実態調査によると、学年が上がるにつれて「自分の気持ちを相手に分かりやすく話せる」「みんなの前で自分の考えを発表できる」子どもの割合が減少傾向にある。これは、発達段階によって恥じらいやためらいが強くなるだけでなく、学年相応のコミュニケーション力や語彙力、発表の仕方、発表内容のまとめ方、さらに思考過程の整理の仕方・振り返り方などを十分に身に付けていない子どもが多いためではないかと考える。

また、「相手の気持ちを考えて行動できる」子どもの割合も少なくなっていく傾向が見られることから、子ども同士や子どもと大人のコミュニケーションそのものが不足しているのではないかと考える。普段の生活の中でも、単語による会話、限られた形容詞的な言葉によるやりとりが多く見られることから、気持ちを伝えたり受け止めたりすることが難しい環境にあると思われる。

以上のような理由から本校では、「書く力」「語彙力」など、基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力等、さらに思いやりや豊かな心などを含めて「確かな学力」ととらえ、それをはぐくむための手だてとして、言語活動を充実させていくことを研究主題とした。

### 3 研究のねらい

- 「言語活動の充実」を意識した授業を展開することにより、

- 言語に対する関心や理解を深める。
- 言語環境を整え、言語に関する能力の育成を図る。
- コミュニケーション力や感性・情緒の基盤を築く。
- 基礎的・基本的な知識・技能の修得と活用を図る。
- 思考力・判断力・表現力等をはぐくむ。

など、「確かな学力をはぐくむ」ことをねらいとする。

### 4 研究の取組

- (1) 本研究主題は3年間の取組とする。
- (2) 学年または個人でサブテーマや研究の視点を設定する。
- (3) 年間を通して、具体的かつ子どもの姿として成果が見える実践を行う。
- (4) 検討会や現職教育、研修会等を通して、授業力、指導技術などの教師力の向上を図る。

### 5 研究の方法

#### (1) 一人一授業・研究の振り返り

- 学年または個人のサブテーマ・視点に基づいて一人一回の研究授業を行う。
- 研究授業は6～12月に実施する。
- 指導案は「研究テーマとのかかわり」「本時の指導過程」をA4 1枚程度にまとめる。
- 授業後の検討会は学年ごとに行う。
- 担任および授業担当者が各自の取組を振り返り、研究の成果と課題をまとめる。

#### (2) 全校授業・事後検討会

- 全校授業は年2回程度行う。
- 下学年、上学年から1回ずつ行うことを原則とする。
- 授業後に全職員で事後検討会を行う。

#### (3) 現職教育

- 言語活動に関する研修会を行う。
- 仙台市標準学力検査の結果を踏まえた「学習指導改善検討会」を行う。
- 新教育課程説明会の校内への「伝講会」を行う。
- 教育センターの専門研修や各種公開研究会等への参加をすすめる。

#### (4) 実態調査

- 子どもの主にコミュニケーション力に関する意識調査を行う。
- 実施時期は5月と1月とする。
- 子どもの変容や学級・学年の傾向から成果や課題をとらえ、次年度の取組の方向性を探る。

#### (5) 研究集録の作成

- 今年度の取組と各学年または個人の研究の成果と課題を研究集録にまとめる。

## 6 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 各学年または個人の授業実践から得た手応え

- ・ 基本話形や基本文型を示して、話すこと、書くことの基本を身に付ける。  
(例えば、いつ、どこで、誰と、何を、どのようになど項目を明示したもの)
- ・ 聴く側の観点を、ワークシートや評価カードに示すようにする。
- ・ 学習のルールを明確にするとともに話すとき、聴くときのマナーを指導する。  
(例えば、姿勢、アイコンタクト、ハンドサイン、声の大きさなど)
- ・ 国語辞典を手元に置かせて、いつでも活用できるようにする。
- ・ 学習課題を焦点化したり共通理解を徹底したりするために、デジタル教科書を活用する。
- ・ ペア学習、トリオ学習など学習形態を工夫する。
- ・ 個の学び→少人数→学級全体→再び個の学びへ、という学びの段階を指導過程に位置づける。
- ・ 朝の会、帰りの会などスピーチを日常的に取り入れる。
- ・ 読み聞かせをすることによって、聴く意識を高め、聴いた言葉を頭の中で映像化して理解できるようにする。
- ・ 特別活動など、子どもにとって楽しめる活動の中での話し合いを大切にする。
- ・ ワークシートやノートを活用して、自分の思考過程や学習の足跡を整理し、まとめや振り返りの手がかりにする。
- ・ 一人一人の子どもが自分なりの意見や答えをもつだけの時間を保証する。
- ・ 発表会などを指導過程に位置づけ、認め合う、深め合う場を設定する。
- ・ 認める、励ます、称賛するなど教師が率先して声に出すことで、学級全体を温かな雰囲気にする。
- ・ 発表の際に、子どもの実態をとらえて意図的に指名する。
- ・ 発表の際には、指名なしでも自ら進んで発表するような積極的な姿勢を大事にして、「伝えたい」「聴いてほしい」という意欲を高める。
- ・ 目的意識をもって読む、自分の課題をしっかりとつかむなど、学習に見通しをもって取り組ませるようにする。
- ・ 相手を意識して話す、話す人を見ながら聴く習慣をつける。
- ・ アイコンタクトがとれるような机配置を工夫する。
- ・ 頭の中で混沌としている考えを、意見交換や発表を通して具体的な言葉にする。
- ・ 言語活動を充実させることも大切なことだが、何を身に付けるために、どんな子どもを育てるために言語活動を充実させるのかを明確にする。

#### ② 先生方が子どもの変容としてとらえた手応え

- ・ 自分の意見や考えを発表できるようになった。
- ・ 聴く態度がよくなった。
- ・ 話すこと、発表すること、聴くことへの意欲が向上した。
- ・ 話すこと、聴くこと、聴いてもらうことを楽しそうに取り組むようになった。
- ・ 言葉を吟味することへの意識が高まった。
- ・ 学習意欲が向上した。

### ③ 先生方が自分自身の変容として感じた手応え

- ・ 言葉や発問，子どもへの声かけ，音読の仕方を吟味するようになった。
- ・ 学習形態（ペア，トリオ，グループ，全体など）を工夫するようになった。
- ・ 発表やコミュニケーション，聴き合う場を多く取り入れるようになった。
- ・ 読み聞かせ，言葉遊びなどを取り入れるようになった。
- ・ 指導過程を今までよりも工夫するようになった。
- ・ 話し方，聴き方，ハンドサインなど学習のルールを指導するようになった。
- ・ 座席配置，指名の仕方，機器の活用を工夫するようになった。

今年度の各学年または個人での実践の中から，上記のようなたくさんの手応えを得ることができた。2人によるペア学習よりも，3人でのトリオ学習が効果的であるとか，相手を意識して話す，話し手を見て聴くための机配置の工夫など，子どもの姿からより具体的な手応えが得られたことは今後の取組にも生きてくる成果だと考える。

また，指導過程を段階的に設定する手がかりや，読み聞かせ，国語辞典の活用など国語力・語彙力を高める手だて，ワークシートの工夫，言語活動の日常化への工夫，発問，声かけ，指名の仕方など，具体的な事例が数多く実践されたことは大きな収穫だと言える。

さらに，子どもの姿や教師自身の姿を振り返って，多くの教師が手応えを感じている。中でも，子どもが自分の意見や考えを発表できるようになった，聞く態度がよくなったことを実感している教師が多かった。さらに，言葉を意識するようになった，自分の意見と友達の意見を比べながら聴くようになった，楽しそうに話したり聴いたりしているなどと，意識や学習に対する意欲の高まりに手応えを感じている教師も見られた。

教師自身の変容としては，言葉を吟味するようになったと感じている教師が多く見られた。子どもを取り巻く日常的な言語環境の在り方が，子どもに対して大きな影響を与えることをあらためて実感したため，教師が自分の発する言葉を見直すきっかけになったものと考えられる。

このように，言語環境を充実させていくことは，授業だけでなく学校生活全般の基盤を確かなものにしていくことだという手応えを得ることができた。

#### (2) 課題

##### ○ 授業における課題

- ・ マニュアル型からの脱却・日常化の工夫

基本話形や基本文型，ワークシートなどを用いれば発表できる，という段階からより日常的に自分の意見や考えを発表できるようにするための指導は今後の課題である。

- ・ 目指す子ども像に向けた年間を通した取組

授業の中での言語活動を充実させることが大切なことは誰もが認めることである。そこからさらに，何を身に付けるために，どんな子どもを育てるために，どのような取組をしていくかをより具体的に明確にする必要がある。

研究授業だけの単発的な取組ではなく，4月に出会った子どもを3月にはどのような姿にして進級・卒業させるか，10年後20年後にはどのような姿になっているかをイメージしながら長期的な展望に立って日々の実践を積み重ねていくような取組が必要だと考える。

- ・ 学級づくり（学級力の向上）

話し手は聴き手を思いやりながら話す，聴き手は話し手を察しながら聴く，つまり言葉を交わすことは心を通わせることだという話を聞いたことがある。言語活動を充実させていくことは，人間関係づくりにつながる部分が多い。どんな授業をするにしても，学習ルールが確立

され、マナーを守り、お互いを認め合い、温かい言葉があふれるような雰囲気が必要である。

教師がリーダーシップを取り、安心して学ぶことができる学級づくり（学級力の向上）こそ我々小学校教師にとって最も大きな課題の一つであるとする。

### ○ 教師自身としての課題

教師自身の課題としてあげられた内容を整理すると ①指導力の向上・わかる授業の実践 ②指導計画の改善 ③人間性の向上 というような内容にまとめることができた。このような謙虚な姿勢を失わず、子どもの成長を楽しみに、日々の笑顔を大切にしていきたい。

### 7 研究のまとめ

今年度の実践を通して成果として見えてきたものを整理すると、次の3段階にまとめることができた。言語活動を段階的に区別することは困難だと思われるが、指導者側の意識として3つの段階に整理すると、今後の取組が具体化されやすいと考える。

段階	指導内容・学習活動	具体的な手だて
①学ぶ意欲や態度・学習の基礎としての言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ルールの確立</li> <li>・国語力・語彙力の向上</li> <li>・学習意欲の触発</li> <li>・人間関係づくりの基礎</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢 ・話す、聞く態度 ・声の大きさ</li> <li>・読み聞かせ ・日常的な言語環境の改善</li> <li>・学習意欲の喚起 ・国語辞典の活用</li> <li>・日常的なスピーチや話し合い活動</li> <li>・認め合う雰囲気 ・相手意識をもつ</li> <li>・学級づくり（学級力の向上） など</li> </ul>
②一人一人の思考の手だてとしての言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題の理解</li> <li>・課題に沿った思考</li> <li>・解決への見通し</li> <li>・課題の解決</li> <li>・思考過程の整理</li> <li>・情報の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個の学びのための時間の保証</li> <li>・好奇心の触発と学習意欲の喚起</li> <li>・目的、課題意識、学習の見通しをもつ</li> <li>・指導過程の工夫</li> <li>・ワークシートの工夫 ・ノート指導</li> <li>・視聴覚機器の活用 など</li> </ul>
③学び合いや情報交換の手だてとしての言語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の発信・受信</li> <li>・多様な情報の容認・批判</li> <li>・情報のやりとりを通じた人間関係づくり</li> <li>・新たな課題の発見</li> <li>・思考の循環</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本話型、基本文型の指導</li> <li>・学習形態の工夫（ペア、トリオ、全体）</li> <li>・発表会、交流の場の設定</li> <li>・指名の仕方の工夫 ・机配置の工夫</li> <li>・個→少人数→全体→個の学びの循環</li> </ul>

これら3つの段階はそれぞれが独立するものではない。特に①に関する指導は、学校生活全般に渡って継続的に指導すべき事項である。例えば、①の意欲や態度・学習の基礎はどの発達段階でも身に付けるべきものがあり、②の思考と手だてとしても、思考が深まればそれだけ必要とされる国語力もレベルアップする。③の段階でも、学び合いや情報交換のためには、その教科の学習に必要な国語力が必要となる。

③の学び合いの後に、新しく得た情報を、再び②に戻って一人一人が自分の意見や答えと比較しながら考えるというように思考が循環することもある。

このように、①基礎となる段階、②一人一人の学びを大切に時間と時間を保証する段階、③互いに意見や情報を交換して、認め合ったり新たな課題を見付けたりするような学び合いの段階、さらに②に戻って再び思考する段階を意識しながら指導計画を作成する。その中で具体的な手だてを工夫しながら日々分かる授業を実践することが、子どもにとって言語活動を充実させることになり、確かな学力をはぐくむことにつながるものとする。

平成 22 年度

校内研究のあゆみ  
(授業研究・校内研修一覧)

月	日(曜)	対象	授業者	内容：単元名・研修内容
4	5(月)	推進委員		研究推進委員会：主な活動内容，校内研究，校内研修
	12(月)	2～6年		仙台市標準学力検査説明会
	16(金)	6年		全国学力学習状況調査説明会
5		全児童		第1回児童対象意識調査
	28(金)	推進委員		研究推進委員会：研究全体会のもち方，現職教育の内容，各学年の研究の取組の報告
6	15(火)	全職員		研究全体会：各学年の取組の紹介，校内研究の見通し等
	23(水)	検討委員		通信票検討委員会
	28(月)	全職員		言語活動研修会：柴山光由氏を招いての言語活動の研修①
7	23(金)	全職員		学習指導改善検討会：学力調査の結果分析と指導法検討
	26(月)	全職員		言語活動研修会：柴山光由氏を招いての言語活動の研修②
8	19(木)	全職員		教育課程伝講会：新教育課程説明会の伝講
9	1(水)	1年3組	熱海	国語「すきなもの，おしえて」
	2(木)	1年1組	鹿野	国語「すきなもの，おしえて」
	3(金)	1年5組	佐藤(文)	国語「すきなもの，おしえて」
	13(月)	1年4組	三野宮	国語「すきなもの，おしえて」
	15(水)	1年2組	玉手	国語「すきなもの，おしえて」
	16(木)	3年2組	常世田	国語「『分類』ということ」
	17(金)	3年1組	佐々木	国語「『分類』ということ」
	21(月)	3年3組	勝倉	国語(全校研究授業)「『分類』ということ」
	21(月)	全職員		全校授業事後検討会：デジタル教科書，電子黒板の使用法
10	6(水)	5年2組	福岡	国語「ニュース番組作りの現場から」
	7(木)	5年4組	後藤	国語「ニュース番組作りの現場から」
	15(金)	5年3組	白鳥	国語「ニュース番組作りの現場から」
	19(火)	5年1組	丸山	国語「ニュース番組作りの現場から」
11	19(金)	特支援学	藤元,河合,栗生川	生活単元「科学館へいこう！」
	29(月)	全職員		言語活動研修会：柴山光由氏を招いての言語活動の研修③
	30(火)	2年5組	廣瀬	国語「見たこと，かんじたこと」
12	1(水)	2年3組	柳川	国語「見たこと，かんじたこと」
	2(木)	4年2組	高橋	国語「『伝え合う』ということ」
	3(金)	2年1組	鳴海	国語「見たこと，かんじたこと」
	6(月)	2年2組	南	国語「見たこと，かんじたこと」
	6(月)	6年1組	田原	理科(教科担任)「てこのはたらき」
	7(火)	6年4組	渡辺	国語(全校研究授業)「海の命」
		全職員		全校授業事後検討会：
	8(水)	2年4組	高橋(陽)	国語「見たこと，かんじたこと」
	9(木)	6年3組	鈴木(教)	国語「海の命」
	10(金)	4少人数	佐藤(敏)	算数(少人数指導)「垂直・平行と四角形」

	13(月)	4年4組	手塚	国語「『伝え合う』ということ」
	15(水)	4年1組	服部	国語「『伝え合う』ということ」
	15(水)	6年2組	千葉	国語「海の命」
	16(木)	4年3組	高橋(恵)	国語「『伝え合う』ということ」
	17(金)	ことば	青柳	ことばの教室自立活動
	20(月)	ことば	鈴木(節)	ことばの教室自立活動
	20(月)	6年1組	星	国語「海の命」
1	12(水)	全職員		校内研究の振り返り・次年度研究についてのアンケート提出
	18(火)	6年2組	木越	理科(教科担任)「水よう液の性質とはたらき」
	21(金)	全児童		第2回児童対象意識調査提出
	25(火)	3年2組	鎌田	理科(教科担任)「じしゃくにつけよう」
	28(金)	全職員		学年・個人研究のまとめ、研究紀要原稿提出
2	10(木)	推進委員		研究推進委員会：今年度のまとめ、来年度の研究の方向性 研究全体会のもち方
	14(月)	全職員		研究全体会：今年度のまとめ、来年度の研究の方向性

言語活動のイメージ図

(図1)

